ライオネル・フィッツジェラルド「ザ・プール」(1934年作)

る運動がはじまった。一九五五年、北部サスカチュワンのエンマ・レイクでのサマー・スクールが二週間延長されて、職業画家たちのための研修会にあてられた。

一九五七年から六六年までの間にはニューヨーク在住の作家や批評家たち、たとえばバーネット・ニューマン、クレメント・グリーンバーグ、ケネス・ノーランド、ジュールス・オリッキーといった人々がこの研修会にやってきた。一九五九年にははっきりしたグループとしての形をとった「レジャイナ・ファイブ」がこの美術学校に生まれ出ている。

同じ頃トロントでは、ニューヨークのハンス・ホフマンのもとで学んだウィリアム・ロナルド(一九二六―)が、アブストラクトに関心を持つ若手作家たちの作品の展覧会を企画した。この第一回の展覧会以後このグループは成長して、引き続き「ペインターズ・イレブン」の名称で展覧会をつづけた。ジャック・ブッシュ(一九〇九―一九七七)はこのグループの一員で、影響力も強く、今日でもトロントの若手の画家たちに多くの刺激を与えつつある。

時の経過を待たねば、今日のカナダ美術の特徴と動向を規定することはむつかしいが、過去十五年間をながめると、何人かの注目すべき一流作家が登場している。マイケル・スノー(一九二九―)は五〇年代に描きはじめ、やがて「ペインターズ・イレブン」に加入したが、近年は映画や写真の分野に力をそそいでおり、この分野では国際的に高い評価を受けている。モントリオールではギド・モリナーリ(一九三三―)が、五〇年代初期のオートマティストに対するリアクションとして誕生したプラスティシャンの理論をさらに推し進め、カナダ最高の洗練されたカラー・アブストラクトを完成させている。六〇年代半ばのオンタリオ州ロンドンはグレッグ・カーノー(一九三六―)らのビジュアル・アートの作者たちの活躍する中心地となった。一方国内最大の都市モントリオールとトロントは、今も変わらず芸術活動の中心地だし、東海岸ではハリファックスのノバ・スコシア美術工芸学校が若い芸術家たちに不断の影響力を持っている。西海岸をみると、一九六〇年代にバンクーバーはマルチ・メディアやビデオ・ワークの中心地となり、一方平原地方ではエンマ・レイクではじめて開花した豊かな感覚から生み出された個性的な画風が育ちつつある。

「二十世紀カナダ絵画展」はカナダ美術の傑作の数々を提供するとともに、この展示によって今世紀におけるカナダ美術の歴史を形作る主要な形式、流派に関する理解を深めてもらうことを目的としている。

スタッフとしては、オンタリオ州立美術館のカナダ美術史部長デニス・リードが今回の絵画展の歴史部門を担当し、カナダ国立美術館の現代美術部門副部長ジェシカ・ブラッドレーが最近十五年の最も今日的な部門を担当している。